

## 1. (2) ⑥ 都市環境の保全、育成、創造に関する調査研究

平成26年度、グリーンビジネス・マネジメント共同研究会では、次の調査研究を行った。

みどりの諸機能を活かすことで利益を生み出すビジネスモデルを創造し、その経営管理の仕組みを構築することにより、低炭素社会、循環型社会、自然共生・健康増進社会の構築及びライフスタイルの転換に貢献することを目的に3部会での研究活動を実施した。

### 1. グリーン・コミュニケーション部会

緑をテーマに幅広い分野とのコミュニケーションを図りながら、以下の取り組みを実施した。

#### ① 「緑のキキメ」改訂版の制作

「緑のキキメ」をわかりやすく説明する冊子として、平成24年にとりまとめた「緑のキキメ」について、最新の情報を更新した改訂版を作成、製本した。

#### ② 民間の優良緑地見学会の開催

特に民有地における優良な緑地の取り組み事例（都市のオアシス認定緑地等）の見学会を開催し、他業種にむけて広く参加を募り、異業種交流会を開催した。

#### ③ 緑の教育者養成プログラムの検討

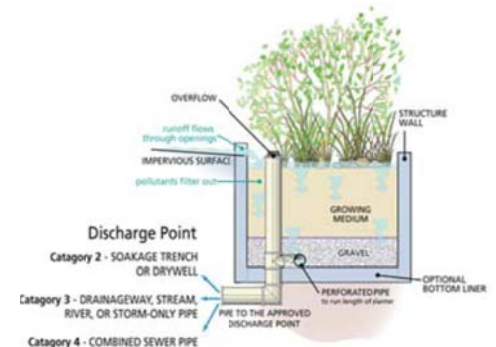
希薄になっている世代間教育体制の再構築及び緑のもつ効能の検討等のため、東京教育専門学校で行われているゴルフキャンプへの支援を行った。ゴルフ場のもつ生物多様性を活かした環境教育等、教育現場への導入を引き続き検討していく。



### 2. 雨水貯留・浸透・利用部会

#### ○ 植物を活用した豪雨貯留浸透施設の整備状況調査

アメリカにおける植物を活用した豪雨貯留浸透施設の整備状況調査を実施し、報告書（「米国におけるLID&GIの現状」）を作成した。シカゴでは合流式下水道の能力を補完するためグリーン・インフラや屋上緑化が進められており、ポートランドでは住環境改善を兼ねた豪雨対策のために、行政と住民が協力してグリーン・インフラの整備を推進している。これらの施設整備には、歩道の中や横の植栽帯を掘り下げて雨水を貯留・浸透させるものがあるが、歩行者の安全確保の点からそのまま日本への導入は難しく、改良が必要である課題等を取りまとめた。

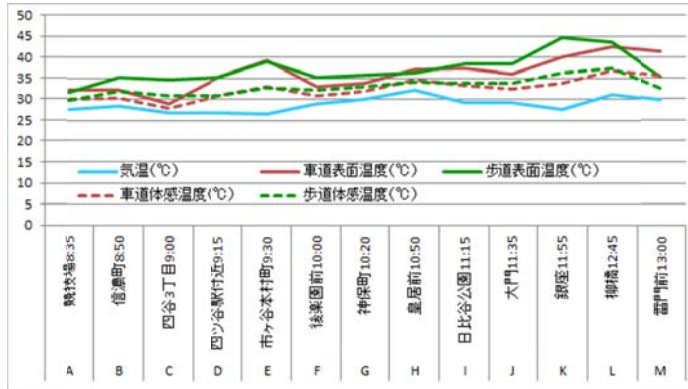


ポートランドにおける雨水対策用の雨花壇（レインプランター）の構造

### 3. 緑化製品・工法部会

#### ○都市部の環境改善の為の調査研究

ヒートアイランド現象等で注目されている、都市部温度環境、気温上昇、熱中症の問題等を鑑みた課題に対して、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控えてのマラソンコースを題材として、東京都心部の都市温熱環境の調査を行った。調査実施に当たっては、桐蔭横浜大学医用工学部、飯島准教授にデータ計測及び分析を依頼し、千駄ヶ谷から浅草地区までのマラソンコース沿道での歩道、車道、および体感温度等の熱環境を調査した。



マラソン予定コース地点の気温・ペーパメントの表面温度・体感温度